

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900197		
法人名	医療法人景愛会		
事業所名	グループホーム誠愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田73番地1		
自己評価作成日	令和6年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念でもある「その人らしさ」の表出を支援し、入居者様個々の状態に応じたケアの実践に努めております。特に声掛け、対話を重視し、家庭的な雰囲気からその人らしさを出せる環境作りを行っております。ご家族様と適時連絡を取り信頼関係を築いております。隣接が母体病院であることから、24時間医療体制が整っており常に安全安心に過ごして頂いております。コロナも第5類になり面会も緩和され接触面会までは行きませんがそれに近い状態までできております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を迎えようとしています。コロナ禍でもあり、地域との関りが困難な状況が続いていましたが、隣接する同法人のグループホームの助力もあり、運営推進会議が対面で開催されたことにより地域と関わりが持てるようになりました。地域と相互に協力し合い、利用者の暮らし方がより楽しく、安心できる支援に向けて取り組むことができるものと思われまます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は代表者、管理者、職員と共に共有し日々実践に繋げていくよう努めている。	理念を念頭に利用者とのコミュニケーションを大切にして声がけするように努め、その人に合った生活スタイルを考えて支援できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策継続中ですが、コロナも緩和されてきており地域の方々へ参加をお願いし、ご家族様と共に交流できるよう計画している。	運営推進会議に多くの地域の方が参加してくれるようになり、会議を通じて情報の収集と発信に努め、地域との繋がりが図れるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染対策中で交流ができていないが、解除になったら交流できるように勤める。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は、5月より会議を開始しホームでの生活状況を知っていただき、意見交換ができるように努めております。また改善課題を話し合い、支援を得る機会にしている。	対面会議が開催されるようになり、出された意見、助言を運営に反映できるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換、意見を頂きながら連携を深めるように努めています。	法人本部が窓口となって対応しているため、管理者が行政窓口に向くこと等はありませんが、法人事務局に相談しながら連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を設け定期的な委員会と研修を行い高齢者虐待防止も含め、管理者、職員間で声掛けし身体拘束、虐待防止に努めている。	研修やミーティング等で職員への周知を図り、身体拘束、虐待のないケアに努めています。常時施錠されていた玄関は、日中は解錠されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方がおります。管理者、介護支援専門員が協力し関係者と話し合い対応できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を提示し、説明、納得して頂き契約を行っています		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様から意見、要望、苦情等いつでも受付し対応しております。意見を前向きに受け取り活かす体制を組織として運営に反映するようにしている。	電話等で家族から意見、要望を聞き、運営に反映させています。苦情は出ないようですが、面会について、或いはそれに関係した質問等があり、その都度対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員の意見や要望は適時受け入れ、法人幹部と話し合いする場を活用し、改善に取り組んでいる。	法人本部に諮らなければいけない意見もありますが、介護備品の増設希望等、スムーズな支援に繋げるための現場の意見が多く出されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン会議が多く参加できていない。事業所として事業所としてサービス向上に向けた情報収集に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話や行動に注視し、傾聴、受容共感にて信頼関係を作り、個々のライフスタイルを把握し安心して生活ができるよう勤めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの情報、要望、課題を把握し、話をしっかり傾聴し信頼関係作りに勤めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできること、支援が必要な部分を分析し家庭的な雰囲気の中での位置確認に勤めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係を踏まえ、面会時、電話、お便り等を通じてご家族様とご本人様の関係、思いを大切にしご本人様を支えて行く関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	感染対策中にてご家族様だけの面会になっていますが、在宅時からの大切な方、馴染みの方々の面会等が途切れないよう支援していきたい。	家族との面会に限らず、知人が電話をかけてくれたり、利用者の生まれた場所にドライブしたりと、馴染みの人や場所がその人にとって大事なものとして支援できるよう取り組んでいます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様や周囲に配慮し孤立しないように心配りし、入居者様同士の相性等把握し支えあえるよう支援に努めている。		
18		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護に係る相談等いつでもお受けすることをお知らせし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で1人ひとりの生活の思い、希望、意向を十分把握し、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	普段から意識して利用者と話すことを心がけており、一人ひとりの思いを大切にホームでの暮らしに活かせるよう取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのライフスタイルに近づけるよう会話の中から情報を得て、ご本人様の経験を活かし楽しみのある暮らし方、生活環境をつくり支援に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	カンファレンスで、入居者様の状態を話し合い多職種と連携し、介護計画作成担当者が現状にあった介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となって職員の意見を聞きながら話し合い、利用者の思いを反映させた本人本位の介護計画となるよう取り組んでいます。家族の意向も確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートにて情報を共有し都度計画の見直しにつなげている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災、水害への取り組みはできているが、感染対策中でまだ地域の方々との連携が取れていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医、主治医が継続されておりますが、ご家族様の要望があれば別の医療機関の紹介、相談にも対応している。	家族の希望もあり、運営母体の病院に変更する方もおります。標榜以外の受診には家族が対応しており、職員が医療機関で合流しています。薬局との協力関係も築かれており、適切な医療支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、介護と連携し状況の変化を共有し、母体病院と連携が取れている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師や看護師、介護職員が情報を文章で共有し、早期隊員ができるよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、状態の変化に伴う重度化の場合、ホームでの支援のあり方を説明確認している。重度化時、ご家族様には受診時同行をして頂き、主治医と今後を話し合う機会を持ってもらい、その結果の意向を検討している。	重度化した場合は、家族の意向を確認の上、母体病院への入院手続きが取られ、法人内での支援が行われています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	迅速な対応ができるようマニュアルを作成し慌てず確実に、適切な行動が取れるようにはしているが、実践訓練が出来ていないため、実践力を身に付けるよう努めたい。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、年2回防災訓練は行っている。非常食、水等災害時の準備はできている。近隣住民との協力体制も準備中です。	夜間想定訓練を実施し、消防署も立ち会っています。隣接する同法人のグループホームと連携し、近隣の具体的な協力が得られる訓練の実施を検討しています。玄関の解錠と非常ベルが連動する仕組みになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を傷つけない声かけをし、プライバシーの保護をしながら、状況にあった対応をしている。	利用者の認知症状に合わせた言葉かけの工夫をしています。入浴時の異性介助については確認しており、現状では問題なく行われています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は個別に、ご本人様の希望に合った服装等準備し、その人らしく生活できるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った料理を提供しております。入居者様と一緒に食器ふき、テーブルふき等行っている。職員は入居者様と同席で食事をし、咀嚼、飲み込み等確認しながら楽しく会話しながら見守りをしている。	嗜好に合わせて代替食を提供したり、必要な方には隣に座って見守りながら、利用者と職員と一緒に食事をしています。その時季のものを提供して季節を感じ取っていただき、山菜の下処理には利用者の経験や力が活かされ、食への関心と楽しみに繋げています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員で献立を作成し、常時試行錯誤しながら献立の変更等臨機応変に対応している。摂取量や状況を記録し職員間で共有している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後個々に合わせた口腔ケアを行い、就寝時には義歯の洗浄、洗浄剤にて清潔保持に勤めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方も多く、排泄票を確認しながら声掛け誘導し、個々に応じた排泄支援をしている。	自立している方が多いものの、排泄チェック表で一人ひとりに合った対応をしています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録しており、排泄がない日が続いたときは主治医に相談し下剤等処方していただくなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日バイタルチェックをし、ゆっくり入浴できる雰囲気や、羞恥心や恐怖感に配慮し週2回の入浴支援を行っている。体調不良時は清拭対応も行っている。	週2回、1日に3人を目標にゆっくり入浴できるよう支援しています。入居時に拒否していた方も、今では楽しみにしており、安心して入浴できる取り組みが行われています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを考慮し、落ち着いて休憩できるよう自室やソファでくつろげるよう配慮している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方内容説明書を添付し職員全員で共有し、変更がある場合業務日誌等で周知徹底している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話等から、楽しみや趣味を聞き、食器拭き、洗濯物たたみ、新聞紙たたみ、新聞の広告でのごみ箱作り等手伝って頂いたり好きな歌番組を観賞して頂いている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事でドライブに出かけたり、ホームの周りの散歩をしたりしておりますが、感染対策中なので頻回にはできていない。	感染症に配慮して外出を自粛していましたが、ドライブやホーム周辺の散歩等に出かけ、少しずつ外気に触れる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理ができる入居者様がおらず所持はしていませんが、買い物等はご家族様にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、定期的な換気等に配慮しながら、ホームに畑を作り花や季節に応じた野菜を収穫し一緒に食したりと家庭的な雰囲気気を心がけ居心地良く過ごせるよう勤めている。	台所での調理の様子がわかる生活実感のある共用空間となっています。利用者は清潔感のある、広いホールの思い思いの場所で寛いでいます。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで1人でも、気の合う仲間同士で会話ができ、のんびり過ごせる空間作りに努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご自宅でご使用されているものをご持参いただき使用して頂き安心して生活できるよう配慮し、その方の生活スタイルを尊重した支援に努めている。	室内は殺風景な感がありますが、工夫することで馴染みの物に囲まれ、安心できる生活の場にできると思われま。ベッドを使用していない方もおり、利用者の状態、機能に合わせて支援しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体に余計な物は置かず安全に移動できるよう手すりを設置、居室、トイレ、浴室等が分かりやすよう名前、マークを掲示し生活する上で混乱が最小限になるよう努めている。		